

環境まちづくりをめざす

# あじえんだ

# 冬

2002

第10号

2002年1月31日発行



みやこ

の  
アジェンダ21  
フォーラム  
ニュー  
スレター



巻頭特集

## 京都のまちなかから始まった 歩いて暮らせるまちづくり

「まちなかを歩く日」に参加して、市民主体で交通実験を実現

アジェンダ見聞録

スウェーデンの環境にやさしい学校認証制度  
グリーンフラッグ

アジェンダ NOW

ライフスタイルWGの地域モデル事業  
第1回京都エコツーリズム実践交流会  
学校版 KES「環境にやさしい学校」認証制度

アジェンダフォーラム会員紹介 ひと・まち・きたる

山田 章博 さん

未来に残したい...  
**京の知恵**

コタツ的未来

「コタツ的未来生活」とは  
つまり、

無意味に広い家を求めず、  
従って余分な事も

しないで済ませ、  
余分な資源も使わず、

出来るだけ  
ノンビリと過ごそうという  
哲学なのです。

写真 恩地 惇

\* 詳しくは5ページをご覧ください

# がんばれ新世紀の公共交通 ~ 京都議定書応援団 ~

## 低公害・低床型バスがまちをめぐる



細街路をめぐるバス

京都初登場のクセニッツのコミュニティバスは、白い車体にブルーのカラーリングで見た目にも優しく、楽しいデザインなので休日の河原町ではとても注目されました。

今回走行した車両はディーゼル車でありながら、黒煙も臭いも無い最新のもので、また、車椅子での単独での乗降も可能な車高調整機能も装備した福祉車両でもあり、作動時の最低地上高は3cmとなり、地面までほとんど床板一枚まで下がります。この機能は現在運行しているノンステップ車両の比ではない、世界唯一のものです。体験試乗は全便満員になり、試乗された皆さんは「ぜひ、京都市でも採用して欲しい」との声が多くありました。環境・福祉・地域活性化の面からこのような小型バスが京都市によって運行される日がくることを望みます。

(当日バスを運転した西本雅則さん：公共交通タスクチーム)

## 乗客に好評だった「わくわくバス」

「わくわくバス」の車掌として感想の一つ。試乗会では子どもから高齢者の方々まで多種多様な方々に乗っていた



乗り降りしやすい低床型

いただきましたが、乗車された皆様方から「こんなバスが一日も早く走ってほしい」「家の近所でもこんなバスが走ってくれるととても便利になる」などと っく

巻頭特集

## 京都を創る 環境都市 アジェンダと創る

## 京都のまちなかから始まった歩いて 市民主体で実現した交通実験

京のアジェンダ21フォーラムの「環境にやさしい交通体系の創出ワーキンググループ」は、都心における自動車抑制策（TDM）の導入策を提案した「都心のエコ交通プラン」(URL:<http://web.kyoto-inet.or.jp/org/ma21f/toshin>)を昨年11月に策定しました。

このプランを実現に近づけるために、「歩くまち京都」をめざした取組である「まちなかを歩く日」に参加して、都心部の商店街のまちづくり組織や、元学区の住民まちづくり団体などで構成される「歩いて暮らせる街づくり推進会議」と協働して交通社会実験を実施しました。

今年度は、自転車と共生する都心をめざして、違法駐輪を減らす「まちなか臨時駐輪場」の設置実験と、低公害・低床型のコミュニティバス（「わくわくバス」）の試験運行を行いました。

交通問題は、市民の手に負えないという無力感をうち破り、市民主導で地域と協働することによって、交通問題を解決する可能性に挑戦したものです。今回はこれらの実験に参加した皆さんの声を集めてみました。

(フォーラム事務局コーディネーター 能村聡)

### 二日間だけの「まちなか臨時駐輪場」実験

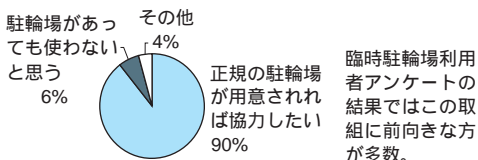
11月17～18日、臨時駐輪場を設置して違法駐輪の多いポイントでは駐輪場への誘導を実施。約40名のボラバイト・ボランティアスタッフが活躍した。写真は、当日の六角広場。(地図上の)

まちなか駐輪場の運営をしました。慣れない仕事で、少しトラブルもありましたがいい経験になりました。駐輪場を利用された方、現地居住者の方にはおおむね賛成意見が多かったと思いますが、誘導に応じずに駐輪されない方も少なからずいました。今回の取組の趣旨に賛同されなかった方々の意見が集められなかったのが問題点。今後の課題だと思えます。

(駐輪場運営スタッフの高僧克則さん：クリティカル・マス)



設問 11 今回のように、駐輪場を設けてそこに収納する試みについてどう思いますか？



### 今後につながるアンケート結果

都心に駐輪場が不足しているのは明らかです。しかし、大きな駐輪場を造れば解決するというほど放置自転車問題は単純ではないようです。放置自転車といっても放置される状況は様々であり、それぞれに対策が必要です。特に、長時間放置される自転車は新たな放置自転車の呼び水になるので、まず対策が必要です。

(調査を担当した諏訪孝幸さん：京都府立大学)

## まちなかでの自転車利用を考える

あじえんだ

冬 2002



車内では車掌によるクイズ「カルトdeバス」も行われた

高い評価をいただき、うれしさと驚きで乗務に疲れた体が楽になりました。

今回の試験走行は小さな芽生えにすぎないかもしれませんが、将来これが大樹に成長し、市内各所でコミュニティバスの花が咲く第一歩として記憶されるかと思えます。

(当日バスの車掌を務めた

松村浩樹さん：公共交通タスクチーム)

## キャンペーンの拠点となった商店街

今、二日間に渡った交通社会実験のコミュニティバス最終便が出発していきました。数年前、商店街の視察で見たバスが、自分の商店街を走っている姿を見て、やっとスタートラインに立てた実感が湧いてきました。

たくさんの皆様のご協力、ご指導、お叱りを受け、二日間事故もなく無事に終了できたことを心より関係各位の皆様にご感謝申し上げます。21世紀の商店街をより良い形で次世代にバトンタッチする為に、微力ではありますが、精一杯がんばりますので、これからもよろしくお願いいたします。

あっ！忙しすぎて自分でバス乗るの忘れた…。

(河原町通の事務局で運営を統括した

藤野祥一さん：河原町商店街振興組合)



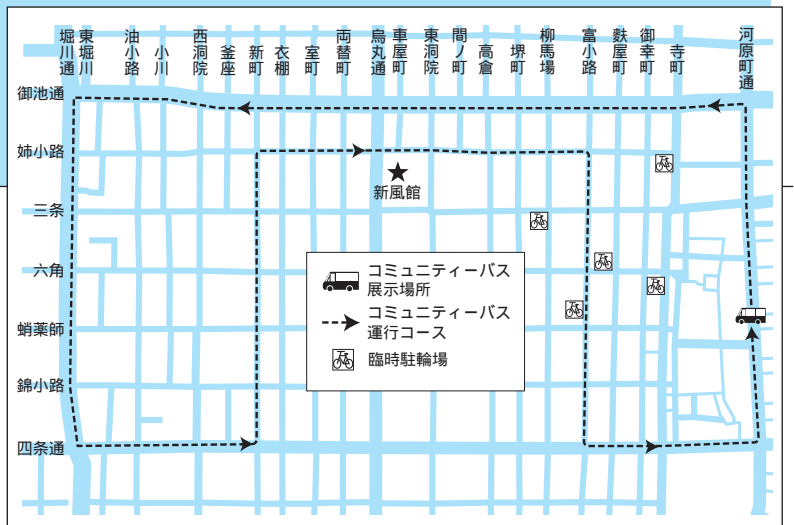
河原町通にコミュニティバスと電気自動車が展示された(地図上の)

# 暮らせるまちづくり

### まとめのコメント

京都のような大都市の都心部で、これだけの規模の交通実験を市民主体で行ったということは、たいへん大きな意義があると思います。自転車のことも公共交通のことも市民が動かなければ解決できない問題ですから、地元の商店街や住民の皆さんも一緒になって動いてくださったこのような取組こそ重要です。さらに輪を広げながら続けていきましょう。

(京都大学工学研究科助教授 中川 大さん)



## 二つの視点からの展示企画

新風館では写真とストーリーで伝える違法駐輪の現状と、京都に似合う駐輪デザイン提案を展示。学生グループ「はい！地〜図」とフォーラム自転車タスクチームが協働で実施した。

### 学生から、自転車のあり方について問題提起

今回の取組を通じて多くのことを学びました。駐輪場が足りない現状、それに対する行政の対応の遅れ、マナーの悪い一部市民など考えさせられることが多々あり、この現状を変えるために積極的に考え、行動することが私たち京都で学ぶ学生の役割であると感じています。今回は貴重な体験をさせていただきありがとうございました。これで終わることなくこの経験を今後にかかしていきたいと思えます。

(展示企画運営メンバーの

高嶋信吾さん：

「はい！地〜図」)



違法駐輪の現状を捉えた一枚

### 駐輪デザインの提案をしました

自転車タスクチームは昨年6月にまとめた「京都都心部を中心とした自転車総合プラン」を実現に向けて進めるため、9月30日に「美しい駐輪を考えるデザインワークショップ」を開催。そこで出てきたアイデアを、CGに起こし駐輪器具のデザイン展示を行い、一部は竹で試作をお願いし新風館で展示しました。京都の町並みにも合う竹製のシンプルな駐輪器具は評判も良く、都心部で特に顕著な駐輪問題解決の一助となれば幸いです。

(展示企画運営メンバーの

右衛門佐美佐子さん：

自転車タスクチーム)



竹製の駐輪器具



# スウェーデンの環境にやさしい学校認証制度 グリーンフラッグ

人口の50%以上が、「経済成長より環境保護を選ぶ」と答える国の一つ、スウェーデン。この国では、288ある自治体のすべてにおいて、ローカルアジェンダ21が策定されている。この国の高い環境意識を形作っているのは、紛れもなく環境教育である。

スウェーデンの環境教育は、自然循環（エコサイクル）に人間の生活や経済活動を合わせていく社会システムや、ライフスタイルの変革を重視している。そして、市民、行政、事業者がこの理念を共有し、協力して自然循環社会を実現するための環境教育に取り組んでいる。三者が協力して設立した独立の民間非営利組織（NPO）がその原動力の一つだ。私は、NPO「環境市民」の環境教育先進事例調査に同行して、昨年11月にそのNPO、The Keep Sweden Tidy Foundation（スウェーデンをきれいに財団 以下KST）を訪れ、元学校教師で広報担当のカトリーン・ヨハンソンさんからお話を聞いた。

KSTは、政府環境庁、自治体連盟などの行政機関、自然保護協会や野外活動促進協会などのNGO、そしてアルミ缶やペットボトルの回収リサイクルを手がける事業者リチュールパック社が理事会を構成し、パートナーシップにより運営されている。運営費は、空き缶1缶に1オーレ（100オーレ＝1クロネ＝15円）の環境課徴金をかけ、年間1億数千円万の財源が確保できることとなった。

## グリーンフラッグを誇りに

KSTの事業の一つが、環境にやさしい学校を認証する制度「グリーンフラッグ」である。96年にスタートしたこの制度では、学校が環境活動に継続して取り組んでいくための環境マネジメントシステムづくりをKSTが支援し、認証を行っている。1. 参画、2. 目標、3. 評価、4. 報告がその実行過程

の構成要素だ。現在、スウェーデン全土で800の学校が取り組み、500校以上が既に認証を受けた。自治体もKSTに加わっているため、各自治体のローカルアジェンダ21においても、「グリーンフラッグ」を学校に普及させる努力がなされている。

ところで、これらの取組の主役はもちろん子どもたちである。ただ一方的な知識伝達だけではあまり効果がないため、子どもが環境活動に参画し、自ら提案するやり方が重視される。まず、生徒や教師が参加して環境委員会が学校に設けられる。委員長は校長である。事務職員や用務員が入る場合もある。とにかくここに関心の高い大人が入ることが重要だそうだ。ここでのKSTの役割は、学校に取組手順やよい事例を写真と絵で分かりやすく解説したガイダンスマニュアルを提供し相談を行うこと。学校ではエネルギー、水、循環、森の4つのテーマの中から5つの目標を環境委員会で話し合い、自分たちで決めて、KSTに500クロネ支払って参加登録を行う。目標は「生ごみのコンポストを始める」、「週に一回は森で活動する」など分かりやすく具体的なものでなければならない。まずは半年から1年間取り組んでから、目標を達成できたかどうかを自分たちで評価し、成果をKSTに報告する。この環境報告書の体裁、表現方法については学校ごとの自由度、個性が大切にされており、活動風景の写真や子どもたちによる手書きの絵などがうまく取り入れられている。認証審査では、議事録をもとに環境委員会が実際にちゃんと機能しているかが特にチェックされる。認証されると魅力的な

デザインの話が学校に贈られる。これが緑の旗＝グリーンフラッグだ（写真）。旗を贈られることが学校やみんなの誇りとなっているようで、学校の玄関にディスプレイされたり、正門の掲揚台に高々とはためいていたりする。認証授与式はメディアにも取り上げられ評判になる。グリーンフラッグは一度もらったらそれで終わりではない。維持するには努力を続けることが求められる。1年ごとに新しいテーマを選ぶか、同じテーマで新しい目標を立てなければならない。

## 京都で始まる学校版KES

「グリーンフラッグに取り組んだ学校の生徒に起こる変化は、知識の向上だけでなく、自分たちにも環境による影響を与えることができるという自信です」という彼女の言葉が印象的だった。これは学校関係者をやる気にさせ、ともすれば乖離しがちな学校での環境に関する知識と実践を一致させるうまい仕組みだ。

いよいよ京のアジェンダ21フォーラムが認証する「京都・環境マネジメントシステム・スタンダード（KES）」の11の学校への試行が始まった。学校版KESとグリーンフラッグは似通った仕組みである。先駆者のグリーンフラッグの経験から学べることも多いと感じた。

（能村 聡）



ヴァックスホルム市のレーサロー学校のグリーンフラッグ（写真提供：環境市民）

**Q** 太陽光パネルが話題になっていますが、実際には何年くらいでエネルギー的・経済的にもとがとれるのでしょうか？

**A** メーカーなどで販売されている住宅用太陽光発電のシステムの多くは、現在工事費を含め200万円前後で販売されています（補助金分を除く）。今回のデータは、太陽光パネル3kwで年間約3000kwhを発電、売電価格を25円/kwhという設定で計算しています。

エネルギー回収で考えると、太陽電池を製造し設置するのにかかるエネルギーは、多結晶太陽電池だと約2年でもとがとれるといわれています。1kwhの電力を生産するときに排出されるCO<sub>2</sub>の量は火力発電で200g-C（炭素換算）、太陽光発電では20g-Cとすると、差が180g-C、1年間で3000kwh発電した場合3000×180で540kg-CのCO<sub>2</sub>を削減できます。

経済的には上記の設定で、年間75000円



分（3000kwh×25円/kwh）の電気を発電することになるので、200万円のもとをとるまでに200万÷7.5万で26年強となります。また、太陽光パネル自体は設計寿命も長く壊れる場所もあまりないのですが、その周辺のシステムを構成するものの交換などが必要になります。たとえば、電気を直流から交流に変換するパワーコンディショナー（インバータ）などは、テレビなど普通の電気製品と同じようなものですから10年くらいたてば交換の必要性が生じてくると思います。

（ワーカーズコープエコテック 関西オフィス 林敏秋さん）

参考『新・太陽電池を使いこなす 家庭でも楽々使える』（桑野幸徳 著）



## 其の拾、コタツ的未来

寒くなればやっぱりコタツでしょ。籠に盛った蜜柑を真ん中に掛け布団の横では丸くなっている猫、これでもう日本の冬は完璧です。3LDKのマンションが普通の住まいのようになった現代でも、コタツだけはしぶとく生き残りました。

広いフロアリングとソファが自慢のリビングルームは出来上がったが、冬が来るとどうもうそ寒く物足りない。そこで家具調コタツの登場となり、それも部屋の間が落ち着くらしい。頭は欧風を向いていても体には「和」の遺伝子が染みついているのでしょうか。そもそも「頭寒足温」で健康的だし、暖房エネルギーとしては多

分世界最小と思える21世紀的装置だが、どこにも異論を唱える方はいない。「コタツに一度入ったら最後動きたくなくなる。ウツラウツラしてしまい活動的じゃないからキライ」が大方の意見だ。

しかしわが家で「くつろぐ」というのは本来こういうことでしょうか。ウツラウツラ夢と現実をさまよいながらの至福の一時を過ごす。いいじゃないですか、たとえすぐに台所が片付かなくても洗濯物が畳めなくても死ぬ訳じゃなし、それとも家が広くて一日中「活動的」に走り回らなければ暮らせないのだろうか。

「コタツ的未来生活」とはつまり、無意味に広い家を求めず、従って余分な事もしないで済ませ、余分な資源も使わず、出来るだけノンビリと過ごすという哲学なのです。

恩地惇

（会員、環境デザイナー）

（株）GK京都取締役社長

写真 山口洋典





# 環境にやさしい 地域づくりをめざして



「環境にやさしいお買い物講座」の様子

ライフスタイルワーキンググループ（WG）が伏見区の醍醐、南浜両地域で地域モデル事業を始めて9ヶ月ほどが経ちました。地域コミュニティを中心とした環境にやさしい地域づくりの先導役として、ライフスタイルWGの支援のもと、それぞれ地域住民を中心に活発な活動を進めています。

## ～環境にやさしい買い物を広げる～

南浜学区周辺地域では、大手筋等の地元の商店街と消費者が連携して環境にやさしい地域づくりを進めることを目指し、伏見区地域女性連合会（地域女性会）の学区環境担当メンバーが中心となって、昨年8月末に商店街マップを完成させ、地域のお祭りで配布しました。その後、ライフスタイルWGが企画・運営に協力し「環境にやさしいお買い物（グリーンコンシューマー）講座」を行いました。【写真参照】

講座はワークショップ形式で行い、参加者は「ゴミにならないようなものを選んで買うという新しい視点が得られた」など、取組のヒントをつかんだようです。この講座を振り返って、今後なお一層、環境にやさしい買い物の輪を地域に広めていく活動に取り組むことが必要であるとメンバーのみんなが認識をあらたにしました。

## ～コミュニティバス実現に向けて～

醍醐学区周辺地域では、昨年9月に地域の自治会、女性会、主要施設などで構成する「醍醐地域にコミュニティバス（小型循環バス）を走らせる市民の会」を設立しました。会では、コミュニティバス運行社会実験を2002年の早期に実施することを目指し、京のアジェンダ21フォーラムのメンバーも参画した「運行計画検討委員会」を設けて事業計画を検討しています。今後、地域住民が本当に必要とし、多くの方に利用してもらえるコミュニティバスを実現するため、コースや運行時間、事業運営のあり方などを住民参加で決めていくアンケートやワークショップなどの開催を予定しています。

2001年6月、市民の会の皆さんが金沢市のコミュニティバスを視察。



## 地 域 で の 実 践 取 組 募 集 中 ！

ライフスタイルWGでは、今年度の地域モデル事業から得られた経験を生かしながら「コミュニティのアジェンダ」を進めるため、市内各地の環境まちづくりや環境にやさしい暮らしに取り組むグループの活動状況アンケートを実施しています。みなさんの取組事例をどしどしお寄せください。アンケートについては事務局までお問い合わせください。ホームページ（URL: <http://web.kyoto-inet.or.jp/org/ma21f/>）でも記入用紙を提供しています。



## ワーキンググループのご紹介

～京のアジェンダ21フォーラム参加の窓口～

「京のアジェンダ21」の重点取組を進めるため、ワーキンググループ（WG）を設置して活動しています。WGの会議、行事等の予定については、ホームページと月刊事務局通信でご覧いただけます。お問合せはフォーラム事務局まで（8p参照）。

## ライフスタイルWG

地域での環境活動を促すプログラム、グループ、人づくりを進め、市民生活、地域コミュニティにアジェンダの取組を広めていきます。

## 企業活動WG

京都版環境管理認証制度「京都・環境マネジメントシステム・スタンダード（KES）」、環境にやさしい商品の購入（グリーン購入）の推進などで環境にやさしい企業を応援します。

## 「第1回 京都エコツーリズム実践交流会」開催へ！

月に1度開催されるエコツーリズムWGの運営会議では、観光と環境に関心をもつ市民、旅行事業者、学生、行政担当者など、多彩なメンバーが円卓を囲みます。この運営会議において、「京都でエコツアーを実施している団体を、どのようにしてネットワーク化するか」ということが、長い話し合われてきました。

京都には、京都の自然や歴史、風土などと親しくふれあう行事（自然観察会、歩くツアー、ハイキングなど）を自主的にやっている団体がたくさんあります。こうした行事の情報を観光客が入手できるようになれば、市民の案内人（インタープリター）と交流しながら、味わいある「京都エコツアー」を体験できる機会も増えるでしょう。しかし、市民団体の行事情報が、観光客の目にふれることはなかなかありません。

そこで、エコツーリズムWGでは、2月15日（金）に、京都市内の自然、環境、観光関係の活動を行う団体にお集まりいただいて「第1回エコツーリズム実践交流会」を開催することとなりました。一つひとつの団体は小さいけれど、団体同士でネ

트워크を築けば、京都エコツアーの情報を観光客に提供していく仕組みがつかれるかもしれません。また、ともに問題点や課題を話し合うことによって、それぞれのプログラムの質が向上し、より魅力あるエコツアーが創出されるでしょう。

この交流会へのオブザーバー参加をご希望の方は、フォーラム事務局までご連絡ください。



### 第1回 京都エコツーリズム実践交流会

日時：2月15日（金） 午後1時～4時半

場所：池坊短期大学 洗心館6F 第一会議室（下京区 室町通四条下ル）



### KES 認証事業部から

#### 京都・環境マネジメントシステム・スタンダード (KES) とは

「環境マネジメントシステム」の京都版です。企業等の経営に当たって、環境への負荷を管理・低減するための仕組みである環境マネジメントシステムには国際規格ISO14001がありますが、よりわかりやすく取り組みやすい京都独自の「環境にやさしい基準」として誕生しました。取組の段階によって、2つのステップを設けています。

## 学校版 KES 「環境にやさしい学校」認証制度に向けて

京都市教育委員会と協力して、KES を小中学校で実践する「環境にやさしい学校」の取組を試行しています。「環境にやさしい学校」は、KES の環境マネジメントシステムを活用して環境教育の推進と環境負荷の低減を目指す取組で、システムが構築できれば、KES の審査を受けて認証を取得することができます。

「環境にやさしい学校」の環境マネジメントシステムはKES ステップ1の規格に基づいて構築されますが、学校は環境教育・環境学習が主な取組になることや、児童・生徒を含めると規模の大きい組織であることなどから、ステップ1には盛り込まれていない組織の整備などにも取り組むこととしています。

ISO14001も含めて環境マネジメントシステムの構築に取り組む際には、環境に及ぼす悪影響を低減することばかりに注目がちであり、環境に及ぼす好影響を増進することを見落としやすい傾向があります。地域の環境改善に貢献したり、環境のことを考えて行動できる人を育てることも、環境に大きな影響を及ぼすポイントといえるでしょう。学校でのKESの取組は、このような点から環境マネジメントシステムを捉え直す一歩となります。

現在、試行には小学校9校と中学校2校の合計11校が参加しています。これまでに7月と10月に説明会を行い、10月には事務局とKES審査員が各校を訪問してアドバイスなどを行いました。それぞれの学校では現在、これまでに取り組んできた環境教育の内容を生かしながら、KESのシステムを構築する作業が進められています。

これらの学校では、電気や用紙の使用量を減らしたり、ごみの分別の取組など、児童・生徒ぐるみでの省資源・省エネルギーの取組を行っているほか、学校近くの川について学ぶ学年別プログラムをつくっている学校、学区内のISO14001認証取得企業に負けない取組を目指している学校などもあります。また、いくつかの学校では組織全体としての環境宣言のほかに児童による子ども版環境宣言づくりに取り組んでいます。

今後、KES認証事業部のサポートにより各校で環境マネジメントマニュアルづくりを進めます。この成果に基づき、学校版のKESマニュアル事例を作成するほか、試行参加校の取組内容をまとめ、報告書の作成や発表会などを行う予定です。4月以降は本格的に「環境にやさしい学校」認証制度を運用し、環境マネジメントシステムに基づいた環境教育の輪を広げていきたいと考えています。

### ゼロエミッションWG

「エミッション」とは「廃棄・排出」。廃棄物を減量し、資源を循環させるシステムの提案を検討します。

現在、独自の活動は行っており、企業活動WGに協力しています。

### エコツーリズムWG

環境と調和したサービス、施設、交通機関のもとで提供できる京都の観光を探っています。京都エコツアー実施団体のネットワーク化をめざしています。

### 環境にやさしい交通体系の創出WG

公共交通や自転車の利用の促進、都心部のエコ交通推進など、京都において環境と人にやさしい交通体系の創造をめざしています。

### エコミュージアムWG

エコミュージアムとは「地域まるごと博物館」。地域に元からあった「モノ」「コト」を、住民自らが発見し生かす、まちづくりの仕組みを探っていきます。

ひと  
まち  
きたる

## 山田 章博 さん



待ち人来る、ではなく「ひと・まち・きたる」。  
京のアジェンダ21フォーラムの会員で、積極的に活動  
されている方を紹介していきます。

昨年11月の「まちなかを歩く日」で配られた「まちなか遊歩案内2001」、ご存知の方も多しはず。このマップの企画・デザインはこの方の手(マウス?)によるものです。「まち」を見て、考えて、提案するプランナー、山田章博さんです。

「歩いて暮らせる街づくり推進会議」について、教えてください。

もとは2000年度の国のモデル事業で、全国20の都市で行われたんです。京都もそのひとつです。「まちなか(中京区東部)」の伝統産業の衰退や高齢化の中で、暮らしとなりわいを結びつけて、自動車に依存せずに暮らせるまちをつくろうと、地域の住民の方とまちづくりの専門家、行政が集まった組織です。私自身は、ボランティアな専門家として関わっています。

じゃ、お仕事は?

「まちづくり」と言いたいところですが、ほとんどは都市計画や土木事業の計画づくりです。まあ、行政のお手伝いですね。ただ、その仕事の中でも、地域の歴史・文化や風景、エコロジカルな環境や資源循環、人と人のつながりなどを重視して、できる限り「参加型」の計画づくりを心がけているつもりです。私に関わることで、行政や業者の押し付けではなく、住民も納得できる計画や事業ができるように努力しています。

もともとは建築デザインを勉強してたんですが、建物ひとつ造っても、世の中が変わるわけではないし、自分の作品を残すことよりも、世の中にもっと関わりたいくて、都市計画や「まちづくり」に進んできたわけです。

都市計画って、分かりにくいですが、でも、マップ(地図)とは縁が深そうですね。

そうですね。都市計画では「地図」が基本的なツールです。地図の上で物事の配置や関係を考えるわけです。そんな仕事柄、地図のメディアとしての可能性については、日ごろから考えてきました。

そんな私が仕事以外で関わった最初のマップは、COP3の折に作った「Kyoto Green Map」です。その縁で今回、アジェンダの自転車観光マップづくりにも呼ばれました。地図は、そこに何をどのように載せるかで、全く違ったものになります。伝えたい情報と使う人の目や手を大切に、特徴のある分かり

やすい、そして美しい地図を作るのは、とっても楽しい作業ですよ。

京のアジェンダ21フォーラムも「歩いて暮らせるまちづくり」に関わっているんですね。

ええ。昨年度も「100円循環バス」の関係で関わっていましたが、今年度の中心は「自転車」でした。まちなかでの自転車は便利でエコロジカルな反面、歩行者にとっては脅威や障害にもなります。今回は特に「駐輪」に着目して、期間中、特設の駐輪場を設けて利用を促し、料金や場所などの条件を調査しました。

「まちなかを歩く日」は盛況でしたね。

おかげさまで、予算も少ない中で、多くの人に協力・支援していただき、参加して下さった方にもずいぶん喜んでいただきました。ただ、もっと一般の市民の皆さんや観光客の方々に広報や情報提供をしなくてはいけないなあと思います。来年度からは、推進会議の体制もしっかり整えて、「まちなかを歩く日」を恒例行事に育てたいですね。

京のアジェンダ21フォーラムのみなさんへのメッセージをどうぞ。

今回の「駐輪場」の実験でわかったんですが、まちなかにもまだまだたくさん「空き地」などの資源があって、もっときめ細かく使えばいろんなことができると思います。また、自転車・駐輪のマナーも、若い人が必ずしも悪いのではなく、かえって普通の若者に、状況を変える可能性があるようにも思いました。

あと、宣伝になりますけど、今また別のマップを作っています。「町家マップ」です。まちなかの京町家と町家ショップを紹介します。3月頃には地下鉄の駅などで配布できると思います。また活用してください。

それは楽しみです。今日はありがとうございました。

(聞き手・撮影 / 千葉有紀子)

## 京のアジェンダ21フォーラム入会のご案内

## 【年間会費】

一口1,000円を単位として、会員ごとに次の口数分とします。

(1)個人会員 1口 (2)団体会員 2口以上

\*会費は郵便振替または銀行振込をご利用ください。

郵便振替口座: 00960-7-143508

京のアジェンダ21フォーラム

銀行振込口座: UFJ銀行京都支店 普通 5468383

京のアジェンダ21フォーラム

## 【会員の特典】

ニュースレター・各種案内資料の無料送付、ワーキンググループへの参加、主催行事への参加など

## 京のアジェンダ21フォーラムニュースレター 2002年冬(第10号)

発行: 京のアジェンダ21フォーラム事務局

〒604-8571 京都市中京区寺町通御池上ル上本能寺前町488番地

京都市環境局環境企画部地球環境政策課内

TEL. 075-222-4037 FAX. 075-222-4039

E-mail. ma21f@mbox.kyoto-inet.or.jp

URL. http://web.kyoto-inet.or.jp/org/ma21f/

企画: 同フォーラムニュースレター編集チーム

編集: 河村吉宏・佐藤桂子・竹花由紀子・千葉有紀子・能村聡・

竹村光世・宮田晃一郎

デザイン・レイアウト: 藤本芳一・山口洋典

このニュースレターは古紙100%の再生紙に大豆油インクを使用しています。